

[具体的なデータ]

表 新ふ化場の主な改良点

	従来方式(旧ふ化場)	新方式(新ふ化場)
用水	<ul style="list-style-type: none"> ・水質が異なる複数の井戸水や河川水を併用 ・池毎に水温が異なる 飼育池注水部水温 10~11.5℃ 	<ul style="list-style-type: none"> ・曝気塔の整備により酸素飽和度99% ・河川水を約3割混入 ・複数の用水を混合して一定の水質 飼育池注水部水温 9℃台
受精管理	受精⇒洗卵	少量の水で受精⇒2分静止⇒洗卵
仔魚管理	<ul style="list-style-type: none"> ・養魚池で砂利撒き管理 ・従来型浮上槽 	<ul style="list-style-type: none"> ・広い養魚池(1.6*25m)を12池新設し砂利撒き管理 ・TOM型浮上槽
稚魚管理	池数 68池 水深 0.3m 平均面積 24.3m ² 平均容積 7.3m ³ 回転数 2回転 飼育密度※ 9,065尾/m ³	池数 10池 水深 0.8m 平均面積 100m ² 平均容積 80m ³ 回転数 1.5回転 飼育密度※ 8,333尾/m ³

※飼育密度は稚魚生産数(旧ふ化場900万尾、新ふ化場1,000万尾)を容積と回転数で按分して算出

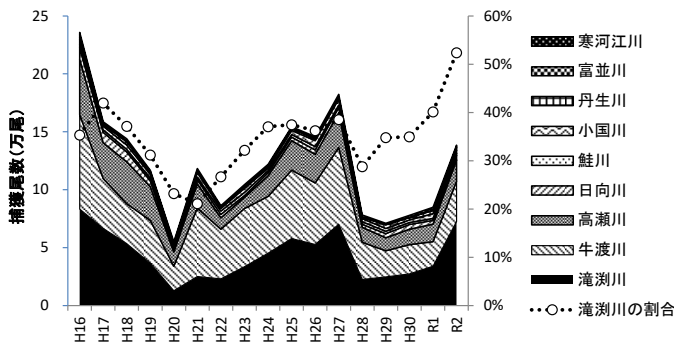


図1 河川別捕獲数の推移

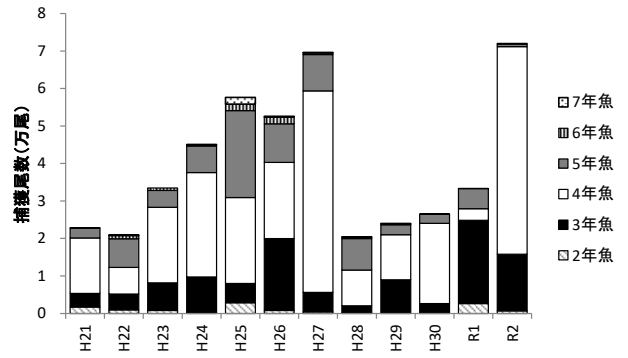


図2 滝沢川における年齢別捕獲尾数



図3 単純回帰率の推移

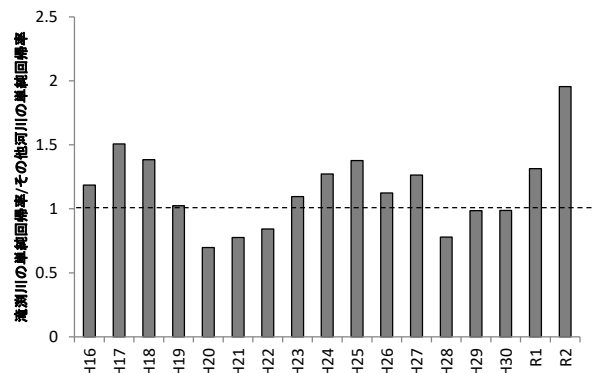


図4 滝沢川とその他河川における単純回帰率の比較
(※その他の河川の単純回帰率を1とした場合)

[その他]

研究課題名：サケ・サクラマス資源調査
 予算区分：県単
 研究期間：令和2年度（平成27～令和6年度）
 研究担当者：工藤充弘
 発表論文等：なし